

# 令和4年度 第13回 役員会議事要旨

日 時：令和4年12月5日（月）

午前 9時30分開会

午前10時11分閉会

場 所：Web 会議

出席者：総長、山口理事、横田理事、吉見理事、増田理事、山本理事、菅原理事、行松理事

欠席者：梅原理事

（オブザーバー）

高橋監事、石川監事、渥美副学長、弼副学長、石森副学長

議事に先立ち、総長から資料に基づき、11月7日の令和4年度第12回役員会の議事要旨に係る確認があった。

## 議 事

### 議案1 令和4年度教育研究総長表彰について

山口理事から、資料に基づき、令和4年度教育研究総長表彰について、特に顕著な教育成果または研究成果のあった者に対して表彰を行うものであること、教育改革室と研究戦略室から推薦のあった14名を受賞候補者とすること等について説明があり、審議した結果了承された。

### 議案2 ネーミングライツ制度の導入について

吉見理事から、資料に基づき、教育研究環境向上のための財源確保、地元企業への積極的展開による地域活性・人材定着への寄与、民間企業との連携機会創出などを目的として、令和5年1月からネーミングライツ制度を導入すること等について説明があり、審議した結果了承され、12月14日の教育研究評議会に報告することとなった。

### 報告事項等1 令和4事業年度中間決算について

吉見理事から、資料に基づき、令和4事業年度中間決算について、令和4年度から適用される国立大学法人会計基準の大幅な改訂により、従来の資産見返負債処理が原則廃止となったため、令和3年度期末の資産見返負債409億円が令和4年度期首に臨時利益として全て収益化すること、前年度に比べ「経常費用」は約29億円増加し、「経常収益」は約6億円増加したこと、今年度の中間決算時点では、経常収益から経常費用を差し引き、臨時損失等を加減した「当期総利益」は約390億円であること、資産については、前年度に比べ約24億円増加したこと、今年度決算の総利益見込については、約400億円であること等について報告があった。

### 報告事項等2 障がい者の雇用状況等について

行松理事から、資料に基づき、本学における本年6月1日現在の障害者実雇用率は2.40%であ

り、法定雇用率の2.6%を下回っていたが、11月1日現在において不足分を解消し、法定雇用率を達成できたこと、今後もますます高い水準を求められると予想されることから、積極的な障害者雇用に取り組む必要があること等について報告があった。

### **報告事項等3 令和4年度病院収支見込（中間決算時点）について**

渥美副学長から、資料に基づき、令和4年度病院収支見込（中間決算時点）について、病院収入の伸び、電力料の高騰に対する全学支援、国からの補償等の増額等により収支見込が当初予算の段階よりも増加したこと、当該収支見込額7.5億円については、病院再開発へ向けた最低限の積立予定額と考えるものとする、ただし、国からの補償等を除いた場合の純粋な収支については前年度より悪化しており、マイナスの見込であること、病院収入額の対前年度増加要因としては、DPC稼働額の増加等があげられること、支出額の対前年度増加要因としては、光熱費の高騰等があげられること等について報告があった。